

令和7年3月18日(火) 14:00～15:30

隠岐合同庁舎 6階会議室ほか/Zoom

令和6年度 第1回 隠岐地域保健医療対策会議

議 事 録

○ あいさつ(岡 隠岐保健所長)

委員の皆様には平素より当所事業にご理解、ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

昨年度、島根県では保健医療計画の改定作業を行い、新しい計画が今年度より開始となりました。改定に当たり、委員の皆様にもご協力をいただきありがとうございました。

本会議のメインとなる議題は、この計画の隠岐圏域の進捗状況確認となりますので、会議前半にお時間を使いまして報告をいたします。後半では、意見交換として人材確保について関係各機関の取り組みをお話いただきます。

今後の隠岐地域の保健・医療・福祉の要となる人材の確保等について、今後の連携強化に繋がればと考えております。今後の隠岐圏域の保健・医療の充実のためにも、ぜひご意見をお願いいたします。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○ 議事

1 隠岐圏域の現状と課題 資料 1

■ 事務局から説明

会場・web ともに意見無し

2 島根県保健医療計画の進捗管理（評価・今後の方向性等）

1) 医療提供体制の現状、課題及び今後の施策 資料 2-1 資料 2-2

■ 隠岐広域連合 川崎副広域連合長

【島後地域 病診一元化の目的】

- ①医療従事者の効率的な人材活用と確保
- ②病院と診療所の役割分担と連携強化により、患者様の利便性を向上させる
- ③在宅サービスへの円滑な移行を図る
- ④資源の共同活用による経費削減

【令和6年度 実績・評価】

- ①患者への医療提供の効率化が図られた
- ②隠岐病院の外来患者数抑制
- ③診療方針のカンファレンス等が十分に可能となり、重症化・入院患者が抑制
- ④医師が働くインセンティブの向上→医師確保へつながる

【今後の目標・方向性】

- ① 隠岐病院と診療所の電子カルテを連携させ、患者情報を共有できるシステム構築
 - R6 年度隠岐病院電子カルテ整備済。R7 年度診療所電子カルテ更新予定
 - 診療内容や服薬状況等がカルテ上で素早く把握できる
 - moconavi(アプリ)の導入を行い、いつでもどこからでも患者情報の共有が可能
- ② 隠岐病院でしかできない検査について、電子カルテで依頼等を可能にする
- ③ 医療機器(CT・MRI 等)の共同利用を可能にする
- ④ 診療所ごとに訪問診療、訪問看護、訪問リハの拠点を置く
- ⑤ 医療品や診療材料費の共同購入・一元管理を実現し、経費を節減する

■ 事務局から資料 2-1、2-2 の説明

全体を通して会場・web ともに意見無し

2) 健康なまちづくりの推進 資料 2-3

■ 事務局から説明

会場・web ともに意見無し

3) 人材の確保・定着の取組と今後の連携強化に向けて 資料 3-1 資料 3-2 資料 3-3

■ 隠岐病院 徳家院長

- ・ 島の医療人育成センターを設置し、離島医療の魅力を発信
 - ホームページ・SNS 等の強化
 - 離島医療フェスティバルの開催(令和 5 年、6 年)
 - 地域枠医師との交流会開催 等々
- ・ 医師派遣や大学等からの支援継続のため、引き続き各機関との連携を進める
- ・ 看護職の進学促進として職場体験・就学金貸与等を実施。学生研修の受け入れ・学生との意見交換会等、進学促進についても幅広く行っている。
- ・ 医療 Dx を推進し、看護師の負担軽減を図る。

■ 隠岐島前病院 黒谷院長

- ・ SNS(Instagram、YouTube) での情報発信を強化し、離島医療の魅力を発信
- ・ 研修医、医学生、看護学生、薬剤師等の見学受け入れ(昨年は 100 人以上受け入れ)
- ・ 西ノ島町出身の医学生、リハ学生、看護学生等と年 2 回情報交換会
- ・ 小中学校出前授業(医師・看護師・薬剤師)や、体験実習の実施
- ・ 非常勤医師、週末等の来診医師について派遣要請
- ・ 看護師不足への取組
 - 山陰地区の看護養成学校等への訪問活動
 - SNS の発信・出前授業

→看護学生の見学受け入れ

→島根県への派遣要請

島根県立中央病院から3か月交代で1人ずつ看護師派遣が決定(1月～来年度末)

→エコーセミナーの開催(令和5年11月開催 参加者16人)

- ・特定技能外国人の介護職員採用(11月～ 3名)

■ 隠岐歯科医師会(にしのしま歯科) 木村院長

- ・各歯科医院で歯科衛生士の確保が課題
- ・今のうちから県歯科医師会、県衛生士会に連携をとっていききたい

■ 看護協会(隠岐病院) 高村支部長

- ・中学3年生を対象とした看護関連グッズの配布
- ・進学ガイダンス等に広報に出向き、就業の促進
- ・各町村主催のイベントに参加し、健康チェック等の実施
- ・働き続けるためのメンタルヘルスケア、災害時の対応等の研修会開催

■ 海士町(海士診療所) 木田川所長

- ・常勤医2名が31年間定着していたが、1名が3月に退職予定
→次のドクターは見つかったものの、この体制で医師を確保していくことは難しい
- ・離島医療会議で離島医療に興味を持つドクターとの交流
- ・医療従事者、介護従事者等全体確保について民間への委託
→どれだけ定住するかが今後の課題
- ・介護職の不足への取り組みについて
 - ・特養がショートステイを取れない、ベッド数が全部使えないという状況
 - ・町を挙げて、西ノ島・知夫とも協力しつつ人材確保に努めていく

■ 西ノ島町 坂栄町長

- ・保健福祉職場体験等旅費支援事業補助金の交付
→医療・介護従事者が町内の病院および介護施設で職場体験される際の費用助成
- ・雇用充足促進事業の移住ツアー(10月・11月開催 12名参加)
→令和7年度も開催予定
- ・県内の介護職養成校から学生受け入れ(8月に安来市の学校から2名受け入れ)
- ・福祉介護人材確保・定着促進事業補助金の交付
→事業所職員の資格取得やキャリアアップ研修の受講、事業所自体の人材確保の取り組みに対して補助金を交付(令和6年度は2法人に補助)
- ・福祉職員等確保対策給付金の交付
→介護事業者就職した場合に一時金・引っ越し費用を助成(令和7年度助成予定)
- ・特定技能外国人受け入れ支援

→ミャンマーから3人ほど町内の法人に就職

■ 知夫村 平木村長

- ・県の補助金を活用し、人材確保の活動をしている社会福祉協議会に助成
- ・隠岐圏域以外からの採用者に就業一時金の支給
- ・介護職場体験参加者への渡航費助成
- ・令和7年4月から役場に保健師を雇用

→資料3-2の活動等を行い、令和6年度は3名ほど交代で保健師活動をしてもらったが、4月からは母子～高齢者まで全部見ることができ、新人保健師への指導も十分にできる保健師を雇用予定

■ 隠岐の島町 池田町長

- ・島根県が実施する医学生を対象とした地域医療実習への協力
→隠岐の島町が取り組む保健事業を説明
- ・看護職確保の取り組みとして、島根県立大学実施の高大社連携事業へ参加
→地元高校生を対象として医療職を選択してもらうことを目指した事業
→隠岐の島町の保健師業務、隠岐の島町が取り組む保健事業について説明
- ・島根県立大学が実施する看護栄養学2年生を対象としたフィールド学習への協力
→地区踏査事前説明、保健事業説明、健康教室への参加
- ・島根大学と島根県立大学による学生向け就職説明会に参加
- ・隠岐の島町社会福祉協議会で介護の仕事についての魅力発信
→介護について知ってもらうことを目的とし、介護を受ける人・介護をする人の両面を体験する講座を全中学校で開催
- ・処遇改善を図るため、介護事業所に対して一人当たり5万円の地方補助金交付
→国の処遇改善対策に取り組んでいることが条件
- ・島根県内の養成校学生に隠岐の島町の介護事業所を体験してもらう(令和6年度～)
→受け入れを希望する町内介護事業所および広域連合と連携し実施
→実際に来島してもらうことにより、町内事業所への就職のきっかけを作る
- ・UIターン者に助成金を交付し、介護事業所への新規就労を後押し

■ 隠岐広域連合 川崎副広域連合長

- ・将来隠岐病院もしくは隠岐島前病院に帰ってくる医療従事者に修学資金を貸与
→看護職…月額5万円、医師…月額10万円
→4年間(山陰で働く方には6年)の猶予
→貸与期間の2倍以上勤務すると全額免除
→隠岐病院 貸与者142名に対して採用者50名(38%)
隠岐島前病院 貸与者12名に対して採用者2名(22%) ※どちらも看護職に限る

- ・島を出たから連絡を絶つのではなく、常に連絡を取りつつ隠岐に帰ってくることを意識してもらうような取り組みを進める
- ・福祉体験交流事業の実施(隠岐の島町・西ノ島町)
 - 全体で 10 名の学生が来島(西ノ島町は 2 名)
- ・介護実務者研修のスクーリング
 - 広域連合で新たに講師を養成し、スクーリングを実施する仕組みとしている
- ・外国人の受け入れ
 - 隠岐圏域では介護の 3 事業所で 7 名を採用
 - 200 万～250 万のイニシャルコストがかかりハードルとなっている
- ・LINE WORKS を導入予定
 - 関係事業者・関係機関とセキュリティが高い状態で資料や動画を同時送付できる

■ 事務局(隠岐保健所) 松尾課長

- ・医師を呼ぶ・助ける・育てるという方向性で各種対策を講じている
- ・代診医派遣制度、地域医療支援ブロック制度等により医療提供体制強化
- ・島根大学医学部附属病院、島根県立中央病院からの病院薬剤師派遣事業開始
- ・看護師・薬剤師関係に県内就職の魅力等を発信するポータルサイト作成
- ・看護学生対象の医療施設見学ツアー

○ 閉会あいさつ(岡 隠岐保健所長)

本日はありがとうございました。時間の都合もあり、意見交換は十分にできませんでした。今日の皆さんのお話や情報を今後の連携等に生かしていければと考えております。

今日前半の事務局の話でもありましたように、地域医療構想につきましては現行のものが 2025 年を見据えて今走っているところですが、次は 2040 年ということで、人口減少や団塊ジュニアの高齢化を見据えた新しい地域医療構想を定めることになっています。

令和 7 年のところで国が検討を進め、7 年度中にガイドラインが出てきますので、令和 8 年に県等で策定することになります。現行のものは特に入院医療・病床が注目されがちでしたが、新しい地域医療構想については入院医療だけでなく、外来医療、在宅医療、介護との連携、精神医療も含めての新しい地域医療構想ということで医療提供体制全体を包含するような構想として検討されているところです。令和 8 年に現行の保健医療計画の中間見直しと合わせて策定になるかと思います。

隠岐圏域におきましても、対策会議・在宅医療部会等で情報提供や、ご意見を伺いながら策定作業を行いたいと思っていますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。